









(エレミヤの生涯・年表)

- 647 この頃、エレミヤ生まれる。ベニヤミンの地アナトテにいた祭司のひとり、ヒルキヤの子エレミヤ。  
642 ユダ王マナセ死。「罪のない者の血をまで多量に流し」と言われる。子アモンが即位。  
640 アモン、家来に殺される。アモンの子、ヨシヤ、ユダ王即位。8歳で王となる。  
633 アッシリア、アッシュール・パニバル下で内乱発生。  
627 エレミヤ、召命、預言の開始。「国々への預言者」アッシュール・パニバル死。  
626 新バビロニア、ナボポラッサル即位。  
622 ヨシヤ王、申命記改革。  
この頃、女預言者ホルダが大祭司ヒルキヤに神の裁きは決まっている旨の預言。「神はまちがいなくあなた方を罰します」ヨシヤ王の宗教改革につく。「種入れぬパンの祭り」(パスカ)を制定。  
614 メディアによりアッシュール陥落。  
612 新バビロニア、アッシリアを征服。ニネベ滅亡。アッシュール・ウバリットII世。  
610 エジプト第26王朝、ネコII世即位。  
609 エジプト王ネコ、アッシリアを助け、新バビロニアと戦うためカルケミシュに向け北上。ヨシヤ王、メギドで戦死。エレミヤ、哀歌を歌う。エレミヤ、エルサレム滅亡預言。エゼキエルも同様の預言。ヨシヤの子エホヤハズ即位。エジプトの勢力下に入る。リブラに呼び出され、廃位となり、エジプトに捕虜。ヨシヤの子エホヤキム(エリヤキム)即位。エジプトの属国。エレミヤの批判。エホヤキムに100タラントの罰金。宮殿建設のため強制労働をさせる。  
608 ナボポラッサル、ウラルトゥに兵を進める。  
607 ネブカドネザル王子、軍隊指揮。カルケミシュの南のキムフを包囲奪回。クラマティに基地。  
605 エジプト軍、クラマティを攻撃し、バビロニア軍敗走。  
ネブカデレザル、主力軍を率いて、キムフ、クラマティ奪回。カルケミシュの戦い。バビロニア軍、ハマテで圧勝。ネコは撃破される。「国に逃げ帰ったものは一人もいなかった」。ネブカドネザル、エジプトまで達する。  
605 ネブカデレザル、エルサレム包囲。エホヤキム、自発的隷属表明。ダニエル等人質となる。  
エレミヤの「エルサレム陥落預言」。ユダの民、エレミヤ処罰の要求。投獄。賢明な長老、エレミヤを救う。ナボポラッサル死亡。ネブカデレザル、バビロン帰還。即位。  
ネブカデレザル、シリアに戻り、戦闘指揮。  
604 エホヤキム、バビロンへの貢献停止。エジプトを頼りにするが、エジプト軍来ず。  
603 エレミヤ、預言を書物にする。エルサレムで読み上げ。エホヤキムの第五年、エレミヤの書が焼かれる。指導者、エレミヤ、バルクに逃げよう勧める。エホヤキム激怒。探索命令。見つからず。  
601 ネブカデレザル、ネコの戦い。エジプト勝利。ネブカデレザル、バビロン帰還。  
ユダは、エジプトの影響下にあった。エジプト頼みの人々多し。エレミヤは反対。  
エホヤキム、ネブカデレザルに公然と反旗。  
599 ネブカデレザル、体制整え、シリアに進出。ケダル、ハツォルの王国を手始めに打つ。略奪隊、ユダを荒らす。  
598 ネブカデレザル、西に進撃。エホヤキムを討つため。エホヤキム死(暗殺?)。その子エホヤキン(エコニヤ)即位。エホヤキム、自発的に開城。しかし、ネブカドネザル、彼を城壁の前に投げ捨て(ヨセフス「ユダヤ古代史」10:97)。  
597 ネブカデレザル、エルサレム占領。ネブカドネザル、エホヤキムを捕虜としてバビロニアに連れて行く。(第一次捕囚)捕囚は多数。「貧しい民衆の一部」のみ残される。エゼキエルもこの時、捕囚。3,023人。ニサン(ニサン)の10日。(エホヤキム、エホヤキムの結末はヨセフスは異なる記述)。ヨセフスは「神の前に正しい人」とする。叔父(ヨシヤの子)マヌヤがゼデキヤという傀儡王として即位。「エジプトに接近しないこと」。反バビロン派有力。\*捕囚の民はエホヤキムを正当な王とする。ユダの人々は彼の帰還を願う。エレミヤはバビロニア支配を認める。  
595 ~594、バビロニア国内で反乱あり(バビロニア年代誌)。鎮圧、首謀者処刑。  
594 エジプト王プサンメティコスII世即位。  
593 バビロニアへの反乱計画(エドム、モアブ、アモン、ツロ、シドン)未遂。(参)エレミヤ29章。  
ギブオン出の預言者ハナヌヤの偽預言事件。28章。  
エゼキエルも災禍の預言。エゼキエルはゼデキヤはバビロンを見ない、エレミヤはバビロンに捕囚の預言。  
592 ゼデキヤ、エジプトと同盟。アンモン人が組する。  
ゼデキヤ、エレミヤの意見を求めるが、エレミヤの意見を聞かず。  
588 ネブカデレザル、エルサレムを包囲。ラキシュ・オストラカ(書簡・589-588)。  
587 エジプト、ユダに援軍。シリア軍一時的に包囲を解く。偽預言者、横行。  
エレミヤ、70年間の捕囚預言。エレミヤ、獄に入れられる(脱走の罪)。シリア軍、エジプトを打つ。エルサレム再包囲。  
586 エルサレムのユダヤ人、糧食絶え、ききん発生。バビロニア軍、城壁を破る。包囲は18か月(ヨセフス)。  
エレミヤ獄中預言。「敵の手に逃れる者は救われる」。指導者たち、エレミヤを告発。「奴はきちがいです」。王はエレミヤを指導者たちに任せる。「首まで泥につかる状態」。王の家僕のエチオピア人助命嘆願。エレミヤ解放。エレミヤ、王に都の明け渡し勧告。投降後の安全を預言。王は同意したが、口外を禁止。エルサレムの民、忍耐。対抗武器の工夫。ついに、「飢饉と飛び道具類」に屈した。  
ゼデキヤ王、アモン人の方に、逃亡。エリコの近くで捕まる。  
王子たちの処刑を目撃させ、目をくりぬき、鎖に繋がれバビロンへ。そこで死。エゼキエル「バビロンを見ることはない」  
ネブカデレザルの親衛隊長ネブザルアダン、エルサレム到着。町と神殿を焼く。指導者、処刑。第二次捕囚。832人。  
神殿の略奪:金銀の什器、ソロモンの大きな洗盤、青銅の柱頭、黄金の机・燭台。  
\*破壊された町々は、数世代にわたって再建されず。ユダの人口激減。残ったのは「貧民の一部」のみ。  
\*大祭司セラヤ、次席ゼバニヤ、リブラでネブカデレザルに面会。セラヤとその子ヨザダク、バビロンに連行。  
586 ユダはシリアの州。ゼデキヤの高官ゲダルヤを総督とする。ミツバ、総督府。エルサレムは人が住めず。  
ゼデキヤは手厚く葬られる。大祭司ヨザダク、鎖を解かれる。エレミヤ、バビロン行きを拒否。  
エレミヤは「生まれ故郷の荒れ果てたみじめな残骸物の中に住むこととした。ミズバに留まる」。  
582 人々がゲダリヤの下に集まる。ヨハナン等。「親切さや寛大さ」。ゲダリヤ、民に、土を耕し、バビロニアへの従順を説く。  
イシュマエルの陰謀。ゲダリヤ、これを信じず。「仮に本当でも、殺される方がまし」。  
アモン人に押されたイシュマエル、宴会で酔ったゲダリヤ等を殺害。  
ヨハナン等指導者激怒。ギベオンで追いつく。イシュマエルはアンモン人の下へ。ヨハナン、エレミヤに祈願。  
エレミヤは、この地に留まるよう勧める。エジプトに行つてはならない。人々は「バビロンの殺させるため」と理解。  
民とヨハナンはエレミヤを無理につれてエジプトに逃亡。エジプトのタフバヌス。第三次捕囚。  
エレミヤの預言は「ネブカデレザルがエジプトにくる、パロ・ホフラが殺される。」と言うもの。  
583 ~571、この間に、エレミヤ、エジプトで客死。民による石打の刑(『預言者の生涯・エレミヤ』)  
570 パロ・ホフラ、アマシスに暗殺される(エレミヤ預言の現実化)。エジプトのユダヤ人も捕囚。  
568 /567、ネブカデレザル、エジプトを攻める。  
562 ネブカデレザル死。エビル・メロダク即位。  
561 エホヤキム釈放され、丁重な待遇を受ける。